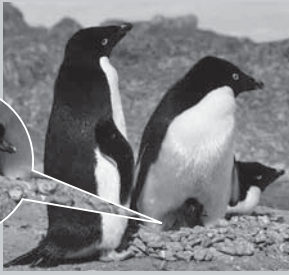


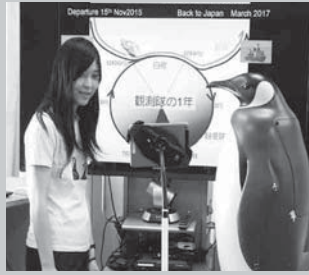
自然の大切さを伝えたい



南極でペンギンの観察を行う。ひな鳥の姿も見られた



地殻や海面水位の変動を調査



観測隊の活動をインターネットで配信



第57次南極地域観測隊の越冬隊員として活動した

笹森 映里さん

ささもり・えり
美沢在住。
東部小学校を卒業し、東部中学校に通った。北海道大学に進学し、理学部地球惑星科学科で学んだ。学生時代にペンギンや海鳥の保護活動を行う。第57次南極地域観測隊の越冬隊で、地殻変動モニタリング観測担当として活動した。



南極地域観測隊に参加

南極大陸の昭和基地で天文や気象、地質などの観測を行う南極地域観測隊。第57次観測隊の越冬隊は平成27年12月に日本を出発し、今年3月に帰国した。その中に北広島市在住の笹森映里さんがいた。地殻変動や地震、潮汐などの観測に従事。取材時は任務を無事に終えたばかりで、充実した表情を浮かべていた。

自然が大好き

札幌で生まれ、2歳から北広島に住む。自然が好きで、特に星を見るのが大好きな子どもだったそう。中学2年の時、大阪に引越し、再び北広島に戻った。大阪にいた頃は、大都会の中で星があまり見えなかった。そんなときには、自然が豊かで星がよく見えた北広島を懐かしく思ったという。北海道大学理学部に進学し地球

を含めた惑星について学ぶ。大学院に進む前に休学し、小笠原諸島で海鳥保護のボランティアを体験。動物の中でもペンギンが大好きだったことから、南アフリカのケープタウンで保護活動もした。南極観測に関わりたいたと、在学中に観測隊員の公募に挑戦し選出された。

南極大陸の雄大な風景

南極では日本と全く違う自然に驚かされた。オーロラの素晴らしさは、寒さも忘れて屋外で見入ったそう。特にブレイクアップという現象が起きると、光が爆発したように明るくなり、美しさも格別だったとか。激しいブリザード(暴風雪)が起きたときには、驚異を感じた。

一方、ペンギンの生息地では、無数の個体を観察し、自然の中で暮らす姿に癒やされた。

基地から日本やその他の国々に向け、南極の様子を伝える活動も

した。「子どもたちに南極の生き物についての話をしたところ、たくさん質問してくれて、うれしかったです」

これからの目標

越冬隊員は限られた物資で1年間を基地で過ごす。そこで出される廃棄物は日本に全て持ち帰る。下水処理などは基地内で行う。その様子を見て、人間が生きていく以上、どうしても環境を汚してしまふのだと、改めて考えさせられた。周囲に木や土の香りがしないことも寂しく、その大切さを実感したという。

「機会があれば、北広島の皆さんに南極の自然や越冬隊の活動について話ができたらと思っています。積極的に行動し、いろいろな人に会って話を聞くことで、夢や目標に近づけると語る笹森さん。これからも自然に関わる活動を続けていくだろう。」

*…他の天体の引力によって起きる海面の周期的な昇降。